

第61回 土木計画学研究発表会(大阪大)

委員会報告

- 1) 委員長挨拶
藤原章正（広島大学）
- 2) 土木計画研究学委員会報告
藤井聡（京都大学）
- 3) 学術小委員会報告
土井健司（大阪大学）
- 4) 運営小委員会報告
寺部晋太郎（東京理科大学）
- 5) コロナ禍根調査
神田 佑亮（呉工業高等専門学校）
ワンデーセミナー100回記念
シンポジウム&土木学会
論文集D4について
藤井聡（京都大学）

令和元年度 土木計画学研究委員会 委員構成

委員長	藤原章正（広島大学）	→ 兵藤哲朗（東京海洋大）
副委員長	兵藤哲朗（東京海洋大）	
	白水靖郎（中央復建）	
	佐々木葉（早稲田大学）	→ 高橋 清（北見工業大学）
学術小委員長	土井健司（大阪大学）	→ 佐野可寸志（長岡技術科学大学）
副委員長	古市正彦（国際協力機構）	
大会運営委員長	寺部 慎太郎（東京理科大学）	
大会運営幹事長	西内 裕晶（高知工科大学）	
小委員長	＜別掲＞	
幹事長	藤井聡（京都大学）	
委員	田村央（国交省道路経済調査室長）	
	筒井 祐治（国土交通省都市計画調査室長）	
委員兼幹事	岩田 圭佑（寒地土木研究所）	松永 千晶（九州大学）
	吉田 樹（福島大学）	稲垣 具志（日本大学）
	神田 佑亮（呉高専）	栗原 剛（東洋大学）
	田中 皓介（東京理科大学）	小池 淳司（神戸大学）
	松田 曜子（長岡技術科学大学）	
	Jan Dirk SCHMOECKER（京都大学）	
	松本 浩和（地域未来研究所）	泊 尚志（東北工業大学）

活動中（令和元年度）の研究小委員会・WS

- | | | |
|----|------------------------------|----------|
| 1 | スマート・プランニング研究小委員会 | (原田 昇) |
| 2 | 航空交通システム研究小委員会 | (平田 輝満) |
| 3 | 「権利と効率のストック効果に関する研究小委員会 | (小池 淳司) |
| 5 | 「ITSとインフラ・地域・まちづくり」小委員会 | (清水 哲夫) |
| 9 | 自転車政策研究小委員会 | (吉田 長裕) |
| 11 | 少子高齢社会における子育てしやすいまちづくり研究小委員会 | (大森 宣暁) |
| 12 | インフラ・ファイナンス研究小委員会 | (安間 匡明) |
| 13 | 減災アセスメント小委員会 | (多々納 裕一) |
| 14 | 物流に関わる国際戦略・研究活動支援事業 | (柴崎隆一) |
| 15 | 日本モビリティ・マネジメント会議実行委員会 | (藤井 聡) |
| 16 | 鉄道技術・政策連合シンポジウム（J-RAIL）実行委員会 | |

新規設置 小委員会

1. 新しいモビリティサービスやモビリティツールの展開を前提とした交通計画論の包括的研究小委員会

(秋山哲男 & 中村文彦)

2. 相乗型災害時の交通マネジメントの理論再構築と社会実装研究小委員会

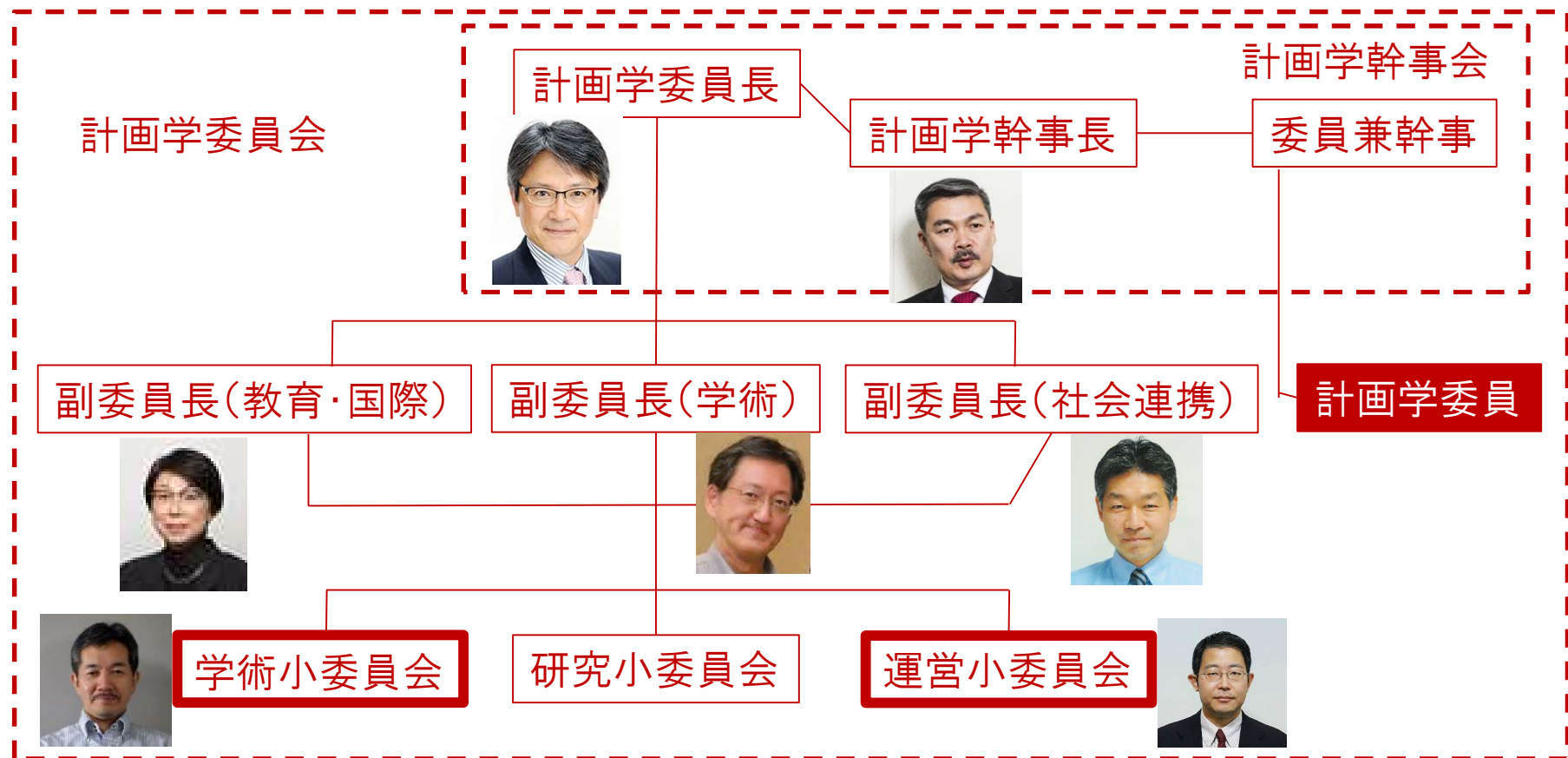
(藤原 章正)

3. 公共交通プライシング研究小委員会

(加藤博和)

計画学研究委員会

- 副委員長 3 名体制継続 「学術」「教育・国際」「社会連携」を担当



第61回土木計画学研究発表会春大会

学術小委員会報告

- 土木計画学研究委員会 学術小委員会
- 委員長 土井 健司

Vol.36出版状況（2019.12.26出版）

（参考） Vol.35

投稿件数：192編

217編

最終判定結果

採択：113編（58.9%）

60.8%

不採択：79編（41.1%）

39.2%

査読者数：236名

（うち学術小委員：30名）

ご協力ありがとうございました。

Vol.37出版状況（2020.4.8出版）

投稿件数：116編（第59回のみ投稿資格）

最終判定結果

採択：70編（60.3%）

不採択：46編（39.7%）

査読者数：158名

（うち特別学術小委員：10名）

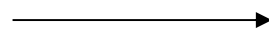
ご協力ありがとうございました。

委員の交代（敬称略）

学術小委員長：土井健司 → 佐野可寸志
幹事長：紀伊雅敦 → 土屋哲

学術委員（交代委員のみ）

柿本竜治
佐藤啓輔
大西正光
鈴木聡士
布施孝志
中村俊之
岡田良之
猪井博登
宗廣一徳
山中英生



藤見俊夫
瀬木俊輔
大庭哲治
岩田圭佑
和田健太郎
長江剛志
内海泰輔
伊勢昇
浅田拓海
鈴木美緒

Vol.38スケジュール

6月15～19日：投稿期間

（投稿資格：第57, 58, 59, 60, 61回発表者）

10月中旬：一次判定結果の通知

11月16日：修正論文の再投稿期限

12月下旬：最終判定結果の著者への送付

2020年4月：刊行予定

査読のご協力よろしくお願いいたします。

大会運営小委員会報告

委員長・寺部 慎太郎（東京理科大学）

1. 小委員会委員
2. 開催状況報告
3. 今後の研究発表会の予定

小委員会委員

委員長

寺部 慎太郎（東京理科大学）

副委員長

橋本 成仁（岡山大学）

春担当幹事

氏原 岳人（岡山大学）

秋担当幹事

西内 裕晶（高知工科大学）

開催校委員（春）

土井 健司（大阪大学）

開催校委員（秋）

高瀬 達夫（信州大学）

柳沢 吉保（長野高専）

轟 直希（長野高専）

協力

学術小委員会1年目委員

小澤 一輝（土木学会）

第61回土木計画学研究発表会（自由投稿型）

会場：オンライン開催試行

日程：2020年6月13日（土）～14日（日）

Zoomホスト：橋本成仁・氏原岳人（岡山大学），日野智（秋田大学），小嶋文（埼玉大学），佐川諒・近石さゆり・泊尚志（東北工業大学），花輪圭祐・石川翔大・寺部慎太郎（東京理科大学）

- 論文セッション（口頭発表のみ）
- ランチョンミーティング

発表講演集に掲載・公開された論文は，本研究発表会での講演発表が成立したものとして扱う．

6月15-19日：特集号論文投稿

12月下旬：採用／不採用通知

開催状況報告

投稿論文数 293編

参加者数 483人

<自由投稿型>

2019春	名城大学	286編	732人
-------	------	------	------

2018秋	大分大学	341編	800人
-------	------	------	------

2017秋	岩手大学	355編	828人
-------	------	------	------

<企画提案型>

2019秋	富山大学	538編	1143人
-------	------	------	-------

2018春	東京工業大学	469編	1048人
-------	--------	------	-------

2017春	愛媛大学	481編	1034人
-------	------	------	-------

第62回土木計画学研究発表会（企画提案型）

会場：信州大学（工学・若里キャンパス），JA長野県ビル

日程：2020年11月13日（金）～15日（日）

開催校委員：高瀬達夫(信州大学)，柳沢吉保・轟直希(長野高専)

- 企画論文セッション（口頭発表，ポスター発表）
- スペシャルセッション
- 招待講演/特別講演
- チュートリアル
- 懇親会

6月19日まで：企画セッションオーガナイザー公募

7月24日まで：論文発表申し込み

10月2日まで：論文投稿

翌年6月下旬：特集号論文投稿

翌年12月末：採用／不採用通知



第63回土木計画学研究発表会（自由投稿型）

会場：未定

日程：2021年 未定

研究発表会の変更点

2019 年度から土木計画学研究発表会が変わります！
土木学会論文集（土木計画学）特集号も変わります！！

変更点 1：春大会 **一般セッション：秋から春へ**

「土木計画学発表会・春大会（自由投稿型）」では、自由投稿論文の発表のみを受付けます。企画論文セッション・スペシャルセッションは開催いたしません。

変更点 2：秋大会 **企画論文セッションとSS：春から秋へ**

「土木計画学発表会・秋大会（企画提案型）」では、企画論文セッション・スペシャルセッションを開催いたします。自由投稿論文は受け付けません。

変更点 3：特集号 **年内に特集号の論文採択通知**

例年 2 月末に投稿締め切り（翌年度 8 月に採否通知）であった土木学会論文集 D3（土木計画学）特集号は、来年度からは 6 月下旬の投稿締め切り（同じ年度の 12 月に採否通知）に変わります。2019 年 2 月 22 日投稿締切の Vol.75 No.5 については変更ありませんが、移行期間の措置として2019 年 6 月 21 日を投稿締切とする臨時号（Vol.75 No.6）を発刊します。

土木計画学研究委員会 COVID-19への対応

2020.06.14

報告事項

1. コロナ関連調査の報告
2. 土木学会「パンデミック特別検討会」
3. 計画学分野で展開されているCOVID-19関連研究
及び今後の展開

1.コロナ関連調査の報告

- **目的** 新型コロナの蔓延、および、政府からの国民社会経済活動自粛要請に伴う 交通・都市活動、社会活動、経済活動に対するインパクトの把握
- **方法** Web アンケート調査
- **対象** 全国 1000 人
(現実の年齢・地域の偏在を考慮してサンプルを回収)
- **調査日** 2020 年 5 月 21 日～24 日
- **URL** <https://jsce-ip.org/2020/06/03/covid19-survey/>



1.コロナ関連調査の報告

【問題点1】 感染リスク・死亡リスクを数倍~数千倍に過大評価

- 『外出時』や『公共交通利用時』の**感染確率**を現実の**3000 倍以上に 過大評価**し、過剰に恐れている。
- 死亡リスク**(感染者 100 人中の死者数)についても、
 - 60 歳以上の感染者の死亡リスクを **2.5 倍**、
 - 40 歳以下の感染者の死亡リスクを **900 倍**と

いずれも過大評価している。

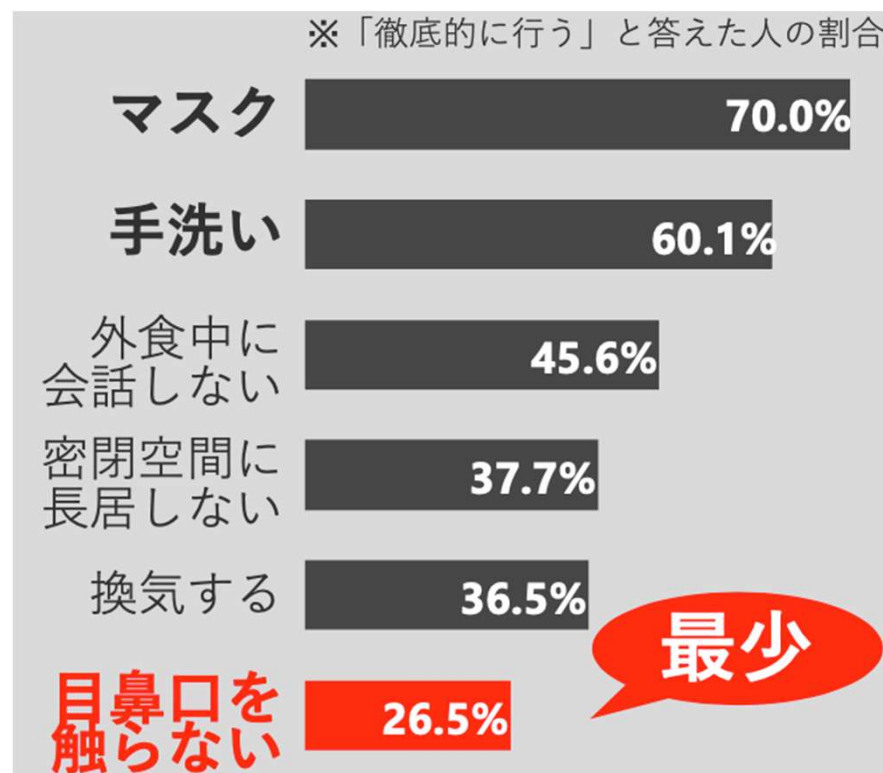
		現実	人々の認識 (回答の平均)
感染 確率	一回外出	0.0050%	3900 倍 → 19.7%
	公共交通 一回乗車	0.0097%	3100 倍 → 30.1%
感染者 100 人中 死者数	60 歳以上	10.6 人	2.5 倍 → 26.3 人
	40 歳以下	0.012 人	900 倍 → 10.8 人

1.コロナ関連調査の報告

【問題点2】

接触感染防止に最も効果的な「目鼻口を触らない」の不徹底

- 手洗いは 60.1%、マスク着用は 70.0%の人が徹底。
- しかし、**接触感染を最も効果的に回避する『目鼻口を触らない』を徹底的に行っている人は最も少なく 26.5%に過ぎなかった。**



1.コロナ関連調査の報告

- **その他明らかにになったこと**
- **【知見1】** 緊急事態宣言については**65%以上が支持**
- **【知見2】** 「家にいる」ことについて、
34.6%が「ストレス」、
46.3%が「楽しい」
- **【知見3】** 「出張」「外食・会食」「娯楽・行楽」が
大幅に減少
- **【知見4】** 参考にするのは、キャスターでも評論家でも
政治家でもなく「専門家の意見」

1.コロナ関連調査の報告

- **その他明らかにになったこと**
- **【知見1】** 緊急事態宣言については**65%以上が支持**
- **【知見2】** 「家にいる」ことについて、
34.6%が「ストレス」、
46.3%が「楽しい」
- **【知見3】** 「出張」「外食・会食」「娯楽・行楽」が
大幅に減少
- **【知見4】** 参考にするのは、キャスターでも評論家でも
政治家でもなく「専門家の意見」

1.コロナ関連調査の報告

- **今後について** 今年度内にパネル調査を実施予定
- **データの活用** 調査結果（単純集計表，クロス集計表）や調査のローデータについては，学術研究目的であればどなたでも利用していただけます。

<https://jsce-ip.org/2020/06/03/covid19-survey/>



データのダウンロード

利用条件

- (1) 集計結果の各ファイルは無償でダウンロードできます。
- (2) 申請者が集計結果の各ファイルをそのまま複製して第三者に譲渡、又は転貸することを禁じます。
- (3) 法律、政令、規則、省令その他すべての法令および条例等の法規に違反する目的・手段・方法で利用することを禁じます。また、他人の権利を侵害する目的・手段・方法での利用及び公序良俗に反するような利用についても禁じます。
- (4) 申請者は、集計結果の各ファイルの使用に起因して第三者に損害を与え、又は第三者と紛争が生じたときは、損害を賠償し又は紛争を解決しなければなりません。
- (5) 申請者は、得られた成果等には出典を明記して下さい。（土木計画学研究委員会「新型コロナウイルスに関する行動・意識調査」）

単純集計表・クロス集計表（性別／年代別／地方別／職業別）

単純集計表 (xlsx) [<Link>](#)

クロス集計表（性別） (xlsx) [<Link>](#)

クロス集計表（年代別） (xlsx) [<Link>](#)

クロス集計表（地方別） (xlsx) [<Link>](#)

クロス集計表（職業別） (xlsx) [<Link>](#)

ローデータ (xlsx) [<Link>](#)

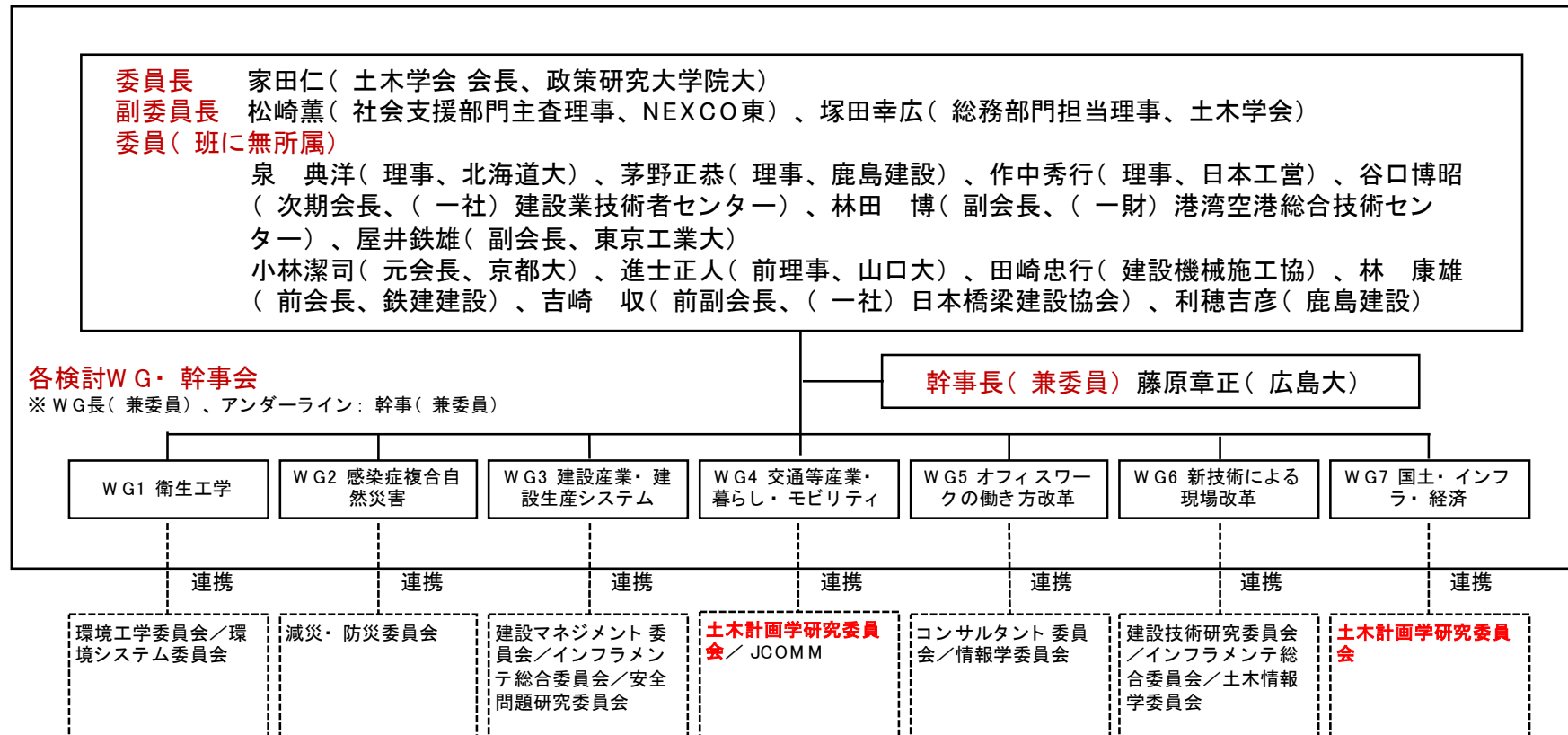
[トップページへ](#)

2.土木学会 「パンデミック特別検討会」

- 今回のCOVID-19について、土木学会「パンデミック特別検討会」を設置
- 衛生工学、自然災害と感染症との複合災害、建設マネジメント、ライフスタイルと働き方の改革、国土・交通・インフラ政策など様々な視点に立ち、短期施策から長期的なインフラ整備のあり方まで多次元的に検討し社会に向けて必要な発信（声明や提言等）を逐次実施。
- 6月に緊急提言（第一弾）を予定

2.土木学会 「パンデミック特別検討会」

・ 検討会の体制



3.計画学分野で展開されている COVID-19関連研究及び今後の展開

- COVID-19 関連研究テーマについて,
5月中旬にIPメールを通じ, 照会
- 現時点 (6/13) で22件の報告

寄せられた研究テーマ

• COVID-19と行動

- 地点別滞在者数ビッグデータからの時系列・空間パターンの抽出（東京大・福田先生）
- COVID-19感染拡大初期段階の生活行動変化・変容および意識調査（広島大・張先生）
- 交通行動シミュレータを用いた、都市圏内における感染拡大研究（立命館大・塩見先生）
- COVID-19流行下における生活行動変容（名城大・杉浦先生）
- PT調査、オープンデータ、民間人流データなど各種データを統合した交通モニタリングシステムの社会実装（福山コンサルタント）
- 首都圏と北関東の住民対象のCOVID-19対応行動実態・意識調査（筑波大・谷口(綾)先生）

寄せられた研究テーマ

- **COVID-19と経済活動**

- コロナ禍における経済活動と交通状況の関係性
(システム科学研究所)
- コロナ恐慌に伴う自殺者数の推計, コロナ感染症対策のリスクマネジメントについての研究
(京都大・藤井先生)
- 新規感染者数の推移についての計量分析および自粛効果の計量分析 (京都大・藤井先生)
- 自粛に関する心的メカニズム研究 (京都大・藤井先生)

寄せられた研究テーマ

- **COVID-19と公共交通**

- 船舶動静（AIS）データに基づく国際海運の現況把握と今後の予測（東大・柴崎先生）
- コロナ禍による全国の公共交通の減収額の推計（JCOMM）
- コロナ禍における全国の公共交通事業者の経営危機状況調査（JCOMM）

寄せられた研究テーマ

- **COVID-19と都市**

- 宇都宮市中心市街地の歩行者・自転車交通量の常時計測・飲食業の営業状況調査（宇都宮大・長田先生）
- 飲酒活動と健康・幸福に関するアンケート調査（宇都宮大・大森先生）

寄せられた研究テーマ

- **COVID-19と災害対応**

- COVID-19流行下における自然災害対応に関する研究（岐阜大・小山先生）
- 災害に対する空港BCPでの考慮と対策，管制業務の維持および集団感染時のサービス維持手法（茨城大・平田先生）

寄せられた研究テーマ

- **海運・航空**

- 船舶動静（AIS）データに基づく国際海運の現況把握と今後の予測（東大・柴崎先生）
- 航空・空港の運用コストへの影響と対策（茨城大・平田先生）
- 航空運行状況をインデックスとした経済回復状況の解析（呉高専・神田先生）

寄せられた研究テーマ

- **海外**

- 中国の交通ネットワークとコロナの感染拡大の影響研究（広島大・張先生）
- 日英独三カ国の首都圏・クルマ依存地域の住民対象のCOVID-19対応行動実態・意識調査（筑波大・谷口(綾)先生）

ワンデーセミナー 100回記念シンポジウム

土木計画学とは何か？

～そのアイデンティティと今後の発展を考える～

報告

日時：令和2年4月1日

場所：土木学会講堂 & ZOOM

参加者：234名（会場17名、オンライン217名）

主旨

- 1) ワンデーセミナー100回を機に、
委員会活動を振り返り(50周年シンポジウムを踏まえ)
土木計画学のアイデンティティを探る。
- 2) **黎明期の議論**を振り返る
- 3) 今後の発展の「**フレーム**」(枠組み)を探る

ワンデーセミナー 100回記念シンポジウム

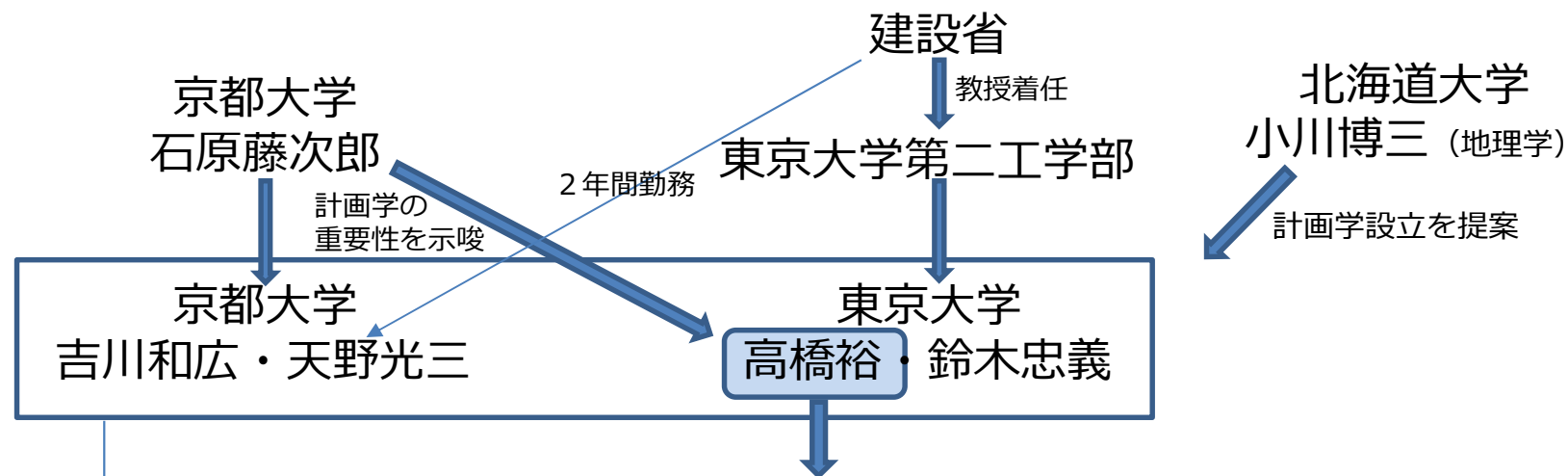
土木計画学とは何か？

～そのアイデンティティと今後の発展を考える～

1. 基調報告：「土木計画学」の内実と拡がりを振り返る（幹事会）
 - ・本シンポジウムの趣旨（50周年シンポジウムを踏まえて）
 - ・ワンデーセミナーの振り返り
 - ・「土木計画学の成立と背景」「初期シンポジウム」等の紹介
2. 講演：「土木計画学」創立時の議論を振り返る
 - ・高橋裕先生、天野光三先生へのインタビュー動画放映
3. 討議「土木計画学のフレーミングを考える」
 - ・委員長・幹事長等

高橋・天野インタビュー&文献調査 (概略報告)

(土木計画学の成立と背景～土木学会編 1976)



■東大で「計画学」設置要望

→ 失敗 (八十島・最上教授の二名だけが賛同するも「**計画なんて学問じゃない**」と否定)

■土木学会で「土木計画学委員会」設置要望

→ やはり「**学問じゃない**」と反発されるも、

「土木計画学とは何かを研究する委員会」という趣旨で、

→ 名前を土木計画学**研究**委員会に変えるということでした承される。

■土木学会、そして、各大学の「工学部」に認められるために、 数理的計画論を全面的に前に出す**戦略**を採用

→ 初期の頃「**土木計画**」の学より **土木の「計画学」**の戦略的強調
(**実践的学問**) (OR的数理的学問)

高橋・天野先生インタビュー（抜粋）

（聞き手）計画学というとやっぱり初期のころは、ORが非常に、線形計画法とか。

高橋先生：そうそう。

（聞き手）あれはもう計画学っぽいですから。

高橋先生先生：そこへもっていけばね、あんまりみんな反対しない。

（聞き手）そういう意味では、方便でORを使っただけであって（笑）。

高橋先生：そうそう、数学的だから、みんな安心するわけ（笑）。

．．．

高橋先生；数学があると、納得するわけ（笑）。

（聞き手）そのあたりがやはりシステムズアプローチだと少し勘とかも抜けてしまうことがあるかもしれないということですかねえ。

天野先生：それで捉えきれない事象っていうのはわれわれとしてはまず．．．勘と経験っていうのもね、必要だろうと。とにかく人間がいかにこう喜んで便利になるというものをつくるかというのが目的ですから。経済的な要素も当然ありますし。それを一応全部踏まえた形にするのはまず不可能だと思いますけど、全部でなくてもいいからできるところまで、やはりあの排除するべきものでないものは残して考えないといけないとおもいますけどねえ。

現状評価

・ 数学を必ず含む「土木・計画学」:

論文になりやすい（＝査読しやすい＝機械的に査読が可能）。結果、勘や経験が排除されがち。

——> 必然的に、シェア拡大が進む。

(論文になりやすい——> 皆研究しがち・論文にしがち——>

そういう研究者が育ちがち——> そういう論文を高く評価しがち& 実践論文を低く評価しがち——> ますます論文になりやすい——> . . .)

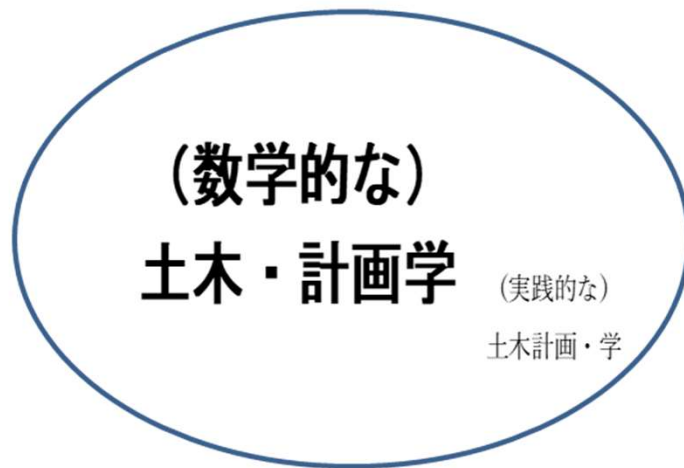
・ 数学を必ずしも含まない「土木計画・学」:

数学がないため、論文になりにくい（＝査読が難しい＝機械的査読ができない）。特に、「勘や経験」は書きにくいし、機械的な査読が難しい。

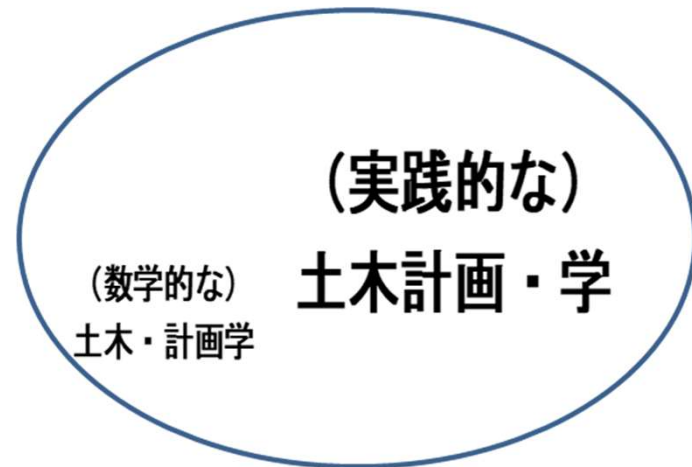
——> 必然的に、シェア縮小が進む。

(論文になりにくい——> 皆研究しない・論文にしない——>

そういう研究者が育たない——> そういう実践論文を低く評価しがち& 数学的論文だけが高く評価されがち——> ますます論文になりにくい——> . . .)



学会（土木計画学研究委員会）



実際の土木の現場

「土木・計画学」と「土木計画・学」のシェアイメージ

「土木計画」の学の復権に向けて

（聞き手）計画学というとやっぱり初期のころは、ORが非常に、線形計画法とか。

高橋先生：そうそう。

（聞き手）あれはもう計画学っぽいですから。

高橋先生先生：そこへもっていけばね、あんまりみんな反対しない。

（聞き手）そういう意味では、方便でORを使っただけであって（笑）。

高橋先生：そうそう、数学的だから、みんな安心するわけ（笑）。

．．．

高橋先生；数学があると、納得するわけ（笑）。

（聞き手）そのあたりがやはりシステムズアプローチだと少し勘とかも抜けてしまうことがあるかもしれないということですかねえ。

天野先生：それで捉えきれない事象っていうのはわれわれとしてはまず．．．勘と経験っていうのもね、必要だろうと。とにかく人間がいかにこう喜んで便利になるというものをつくるかというのが目的ですから。経済的な要素も当然ありますし。それを一応全部踏まえた形にするのはまず不可能だと思いますけど、全部でなくてもいいからできるところまで、やはりあの排除するべきものでないものは残して考えないといけないとおもいますけどねえ。

今後のアクション：3つのオプション

代替案1：土木計画学テーマを組み替え**非OR的＝土木・計画学的キーワード充実**。

——>マイナーなインパクトに留まり、影響はほぼないリスク？

代替案2：「非OR的＝土木計画・学的」テーマを軸とした、**第四分冊：D4を創設**。

(例)

D3 土木計画学 (Infrastructure Planning and Management : methodology & technology)

&

D4 インフラ政策学 (Infrastructure Planning and Management : policy and practice)

．．．．

代替案3：「土木計画・学」を「忘れないようにする」方向で**土木計画学研究委員会を改名**

・ **そもそも、「土木・計画学」は、「土木計画・学」のサブ領域**ではないか？

(土木計画には、「土木・計画学」「土木・心理学」「土木・財政学」「土木・行政学」

「土木・政治学」．．．が貢献する。計画学は一部領域に過ぎない筈)

・ そういう誤解を無くすための名前を検討する。

例：infrastructure planning and management学、インフラ計画マネジメント学、土木政策学、インフラ政策学．．．等

藤原委員長閉会挨拶より（抜粋）

「50年前」を振り返る良いきっかけとなった。

「50年前にやってたことを、やっぱり繰り返しているのではないか」という指摘があったが、真摯に学理に向き合っている集団ならば、土木計画の実践、あるいは、「土木計画の学」に対する議論というの
は決して無くならないし、世代が引き継いでいくことも間違い無い。議論ででてきた土木計画学「D4」については、進めるべきと考える。

土木学会論文集D4の 設立に向けて

土木学会論文集D4の設立に向けて(1)

目的：土木計画学研究小委員会を設置する際の目的であった「土木計画の学」をさらなる発展を期する。

経緯：（幹事会合宿を踏まえた）シンポジウムの議論を受けて、
幹事会 & 委員会にて検討
(イメージ)

D3:Infrastructure Planning and Management : **methodology & technology**

土木計画学：方法と技術 土木の「計画学」：理工学的、自然科学的

D4 : Infrastructure Planning and Management : **policy and practice**

土木計画学：政策と実践 「土木計画」の「学」：実学的、社会科学的

土木学会論文集D4の設立に向けて(2)

キーワードの検討：

(例) インフラ政策, 社会資本マネジメント政策, 公共政策論, 国土・地域・都市政策, 交通政策, 交通運用管理政策, 環境政策, 防災政策, 景観・デザイン政策, 空間情報政策, 合意形成政策, インフラ経済財政政策、等の「政策論」「政策実践」、都市政策、交通整備制度、制度設計、インフラ政策に資する定性的現象分析、インフラ政策思想。。。等

査読について：

- ・土木学会論文集の基準を基本とする。
- ・ただし、「とくに重視すべき査読基準等」を準備する。
- ・査読体制の検討。

今後について：

R2年4月 シンポジウム (→幹事会→委員会)

R2年6月 春大会 (→是非ご意見お願いします！)

&土木学会論文集/学術小委員会を交えた議論)

R2年11月 秋大会 (議論の中間報告)

(可能なら R3年2月 アナウンスメント

R3年6月 春大会の論文の受付)

令和元年度土木計画学研究委員会 予算執行状況 (概要)

【収入】確定

- 調査研究費 ￥ 953,000 (▼85,000)
(委員会活動評価)
- 調査研究拡充支援金 ￥ 3,339,000 (▼79,000)
(行事還元金)

収入合計 ￥ 4,292,000 (▼164,000)

【支出】予定

- 委員会旅費交通費 ￥ 752,778 (▼444,790)
(幹事会4回、国際関連賞推薦選考小委員会等)
- 会議費
(委員会・幹事会 会場、飲食代) ￥ 112,520 (▼105,380)
- 計画学HP関連費用 ￥ 210,824 (▼479,342)
(レンタルサーバー利用料 199.8千円/年,
学術小委員会メーリングリスト費用11千円/年)
- ワンデイセミナーインタビュー 文字起こし ￥ 19,000
(アルバイト代)
- 諸経費 ￥ 1,022 (▼9,002)

支出合計 ￥ 1,096,144

残高 ￥ 3,195,856